

11月5日（金）

○ 釜山広域市の概要と大阪市との関係

- ・ 釜山広域市は、首都ソウルに次ぐ韓国第2の都市（人口は約358万人、面積は約766k㎡）であり、同国の東南端に位置しています。
- ・ 国際貿易港と国際空港を備える港湾都市であり、海外交通の要衝として古くから外国との文物交流の中心地として栄えてきました。
- ・ 広域市とは、制度上は日本の政令指定都市と似ていますが、日本の都道府県に相当する道から独立していることや、市内に郡・区を属させることができ、それぞれの郡・区が自治体としての地位を持つ点等が異なります。
- ・ 大阪市との主な関係としては、昭和60年に釜山港（政府管轄）と姉妹港提携を締結していますとともに、平松市長が平成20年に同市を訪問し、許南植市長と友好都市提携を締結しており、以来、経済面や技術面等において交流を深めています。

釜山広域市と大阪市との比較

		韓国	大阪市
		釜山広域市	
人口		約360万人 (2008)	約265万人 (2008)
面積		約766 K㎡ (2008)	約222 K㎡ (2008)
製造業	工場数	3,866 件 (2008)	15,778 件 (2008)
	従業者数	129,523 人 (2008)	162,075 人 (2008)
	出荷額	2,653,496 百万円 (2008)	4,684,600 百万円 (2008)
輸入額		1,211,832 百万円 (2008)	4,131,405 百万円 (2008)
輸出額		1,036,387 百万円 (2008)	3,489,529 百万円 (2008)

為替相場については、平成 22 年 11 月 1 日時点を参照

1 日本円=0.07KRW(韓国ウォン)

■駐日本釜山貿易事務所経由 釜山広域市問い合わせ

■大阪市計画調整局HP

(<http://www.city.osaka.lg.jp/keikakuchosei/category/882-11-0-0-0.html>)



○ 釜山新港湾 視察

韓進海運新港湾(株) 崔 英培 社長、他

【概要】

広報センターという来訪者のための見学施設において、新しい釜山港の特色等についてビデオ等を使って説明を受けました。

新しい釜山港は、旧港の物理的制約から離れ又機能的な革新を目指し、東北アジアのハブ港たらしめる大規模な新港湾建設プロジェクトです。最終的にはコンテナ埠頭 30 バースの建設予定で、現在既に 18 バースが完成しています。

今回案内頂いた韓進海運は、3 バースを有し、岸壁クレーン 12 基、ヤードクレーン 42 基を備えています。その特徴はコンピューター制御による自動化システムで、合理化によるコスト削減とスピード化により極めて高い生産性を達成しています。

アジアの主要港湾とのコンテナターミナルに関する比較

	シンガポール港	上海港	釜山港	大阪港	神戸港
平成 21 年貨物取扱量 ()内はトランシップ率※1	2,587 万 TEU ※2 (81%)	2,500 万 TEU	1,198 万 TEU (45%)	184 万 TEU	177 万 TEU
コンテナターミナルのバース数	54	44	39	9	12
コンテナターミナル岸壁延長	16,000m	13,000m	11,000m	3,200m	4,530m
コンテナターミナル岸壁水深	9.6~16m	9.4~17.5m	12.5~18m	12~16m	13~16m
コンテナターミナル面積	600ha	431ha ※3	620ha	122ha	137ha
コンテナターミナル設置数	190 基	110 基 ※3	94 基	19 基	29 基

※1 積荷港から荷卸港まで、同一船舶で運送されずに、途中港(中継港)で積替えされることをトランシップといいます。

※2 TEU(twenty-foot equivalent unit、20 フィートコンテナ換算)とは、コンテナ船の積載能力やコンテナターミナルの貨物取扱数などを示すために使われる、貨物の容量のおおよそを表す単位。20 フィートコンテナの1個分を1TEUとします。

崔社長からは、「日本の港湾は、ここへ来てようやく選択と集中が図られてきた。しかしながら、これまでの政策により、分散化してしまっている面があり、物流が基本的に少なく、かつ、高コスト体質である。世界と高いレベルで競うまでには高い壁があり、乗り越えることは極めて難しいのではないか。」という厳しいお話を伺いました。



韓進海運新港湾(株) 崔 英培 社長と

釜山新港湾 視察

崔社長は、大阪勤務の経験もあり流暢な日本語を話されました。釜山市と大阪市の港湾行政の交流や情報交換が必要であり、自分も協力できることはしたいとの考えを述べていただきました。

その後、港湾施設内を車で案内頂きましたが、間近で見ますとその近代化された施設に圧倒され、大阪市の港湾も相当のスピードでキャッチアップしないと世界と伍していくことは難しく、これは低からざるハードルであるとの思いを強くいたしました。

○ TKSCT Corp. 訪問

金 英鎬 社長、星山 秀永 部長、他

同社は、半導体の設備に使われる部品を製造しているメーカーで、大阪の株式会社フジキンが資本出資しています。

株式会社フジキンが、韓国のサムスン等への供給者としてライバルになると思われたSCTとの共存を目指して合併したという比較的珍しい形のM&Aが行われたとの説明を聞きました。

株式会社フジキンから出向している星山部長から、「細かい部品の質は日本企業が優れていますが、韓国企業は意思決定のスピードが速く、それぞれに長所があります。現在は、双方の長所を活かして協力しあっており、合併の利点を実感しています。」との話をお聞きしました。



TKSCT Corp. 訪問

技術や文化の違いのある中で、それぞれの長所を上手く取り入れることのできる海外進出は、日本の中小企業の今後の進む道のヒントであるようにも感じました。

日本語を学習中の若手社員からの日本語によるプレゼンテーションを受けた後、管理の行き届いた工場内を見学し、視察を終えました。

○ 釜山広域市 許 南植 市長 表敬訪問

白 盛澤 副市長、他

地元 TV 局等メディアの取材も行われる中、釜山広域市 許 南植 市長を表敬訪問いたしました。



釜山広域市 許 南植 市長 表敬訪問

【概要】

許市長から、2年前平松市長に釜山を訪問頂き、友好協力都市提携を結び両市の関係を深めていることへの感謝と私の訪問を心から歓迎する旨が述べられました。

私からは、友好協力都市提携を行って以降、経済面、技術面様々な分野で交流が進んでいることを喜ばしく思いますと共に、今回の訪問を契機として、両市の更なる関係強化が進むように努めたいこと、また今回の訪問に際し、駐日本釜山市貿易事務所の林副所長に行程のアレンジ等全般にわたり協力頂きましたお礼をお伝えしました。

○釜山広域市 諸 宗模 市議会議員 表敬訪問

許 台俊 市議会運営委員長、他

釜山広域市 諸 宗模 市議会議員を表敬訪問し、議場見学をいたしました。



釜山広域市 諸 宗模 市議会議員 表敬訪問

【概要】

諸議長からは、私の訪問を歓迎すると共に、未来に向けての交流が進み、実質的な友好と協力が拡大することを希望しますとのご挨拶がありました。

私からは、友好協力都市提携が行われた後両市の間で交流が進んでいることを喜ばしく思いますと共に、両市の議会も更なる関係強化が進むように努めたい旨をお伝えしました。

その後、議会の市民向け広報プラザを案内頂き、IT化が進んだ議場も見学させて頂きました。ペーパーレス化が進み、迅速な議事運営が可能な議場は、今後本市の議会改革を進めていく上でも大いに参考になりました。



釜山広域市 議場見学にて、説明を受ける

《むすび》

今回の視察・調査では多くの工場訪問を行うなど、日程的にはかなりハードな面もありましたが、その分、様々なことを体感することが出来たと思っております。

大阪市では、成長著しいアジアと共に成長することを大阪市経済成長戦略の視点としていますが、今回の視察ではまさに成長するアジアを実感することが出来ました。

ベトナムのホーチミン市ではバイクの放列に驚かされました。時には子供を乗せて 5 人乗りという光景をも目にする事が出来ました。経済力ではまだまだこれから発展の途上にありますが、町全体に日々変化があり、人々も若さとエネルギー、夢があり、映画『三丁目の夕日』の時代の日本と重なるものがありました。ベトナムはお国柄として日本と親和性が高く、今後も積極的に提携等を進められるように感じました。

シンガポールは既に高い経済力を示しており、完成した国という印象を持ちました。政治における意思決定の早さもこの国の発展を支えているのだと思います。

中国では、深圳と上海、共に経済成長著しい二つの都市を訪れましたが、それぞれに異なる顔を持っていました。

深圳市は都市計画に基づいた整然とした街であり、国家の威信を賭けた「実験都市」とでも呼べるかも知れません。また、IT の分野での世界のトップ企業が育っており、その成長力も強く印象に残っております。

一方、上海は大阪に通じる気質のようなものを感じました。隣接の省も含め 2 ヶ所の工業開発区を視察しましたが、今後も成長の余地は高く、大阪企業が進出することも含め、一層協力関係を深められるのではないかと思います。上海市とは、1995 年の BPC 提携のほか、大阪市上海事務所など、既に様々なネットワークを有していますが、今後、これらを活かして、経済面その他の交流を深めていきたいと思っております。

釜山広域市は韓国第 2 の都市であり、関西圏の中核都市である大阪市との共通点が多いと思われました。日本で適合しなくなった企業でも、補完的に釜山で活躍出来る可能性のある業種があり、積極的な交流を深めるべきだと思われました。又、既に述べました様に、釜山広域市の議会の先進的な部分は大阪市でも導入できないか具体的な検討に入れればと思っております。

日本経済、大阪経済の空洞化は絶対に避けなければなりません。しかし一方でアジアの旺盛な需要を確実に取り込み、又汎用品はアジア、高度技術製品は国内生産を継続するなどの棲み分けも適切に行っていく必要があると思います。

国際政治的には常に様々な状況変化があろうかと思いますが、商工会や個別企業レベルの民間経済外交は着実に成果を挙げていることも実感できました。民間事業者が海外へ一層積極的に「打って（売って）出る」ことを国も自治体も支援することが重要です。

大阪市としても、海外の需要を的確に把握し、それを民間に繋げていく仕組み作りを一層積極的に取り組むことを望みます。特に、上海の開発区の視察においては、現地で働く従業員とのコミュニケーションを円滑に進めていける人材の確保が重要であることを強く感じました。さらに、進出企業は、受入側の継続したサポートを求めており、これが企業誘致の成功のポイントであることを強く感じたところです。進出企業が継続して良好な関係を築き、誘致の実を挙げることにつなげるよう、大阪市が一体となって力強く取り組んでいく必要があると思います。

また、大阪の水事業や鉄道事業の都市インフラに関する高い技術力を今後も一層積極的に海外展開することが求められます。港湾に関しては、かなり水を開けられた現在の状況を打開するために、集中化と共に合理化・高品質化の道を探っていく必要を感じました。

今後は、民間レベルの交流、経済を中心とする交流を一層活性化していき、アジアと共に成長する施策を大阪市が進めていけるよう、今回の視察で得た知識や経験を活かしてまいる所存です。しっかりと政策立案の方向性を点検、支援し、議会自らも交流の柱として、一層大きな役割を果たしてまいりたいと考えております。

今回の海外視察に行程の確定に至るまで様々な形で協力を頂きました市会事務局、政策企画室。調査や情報収集に協力を頂きました港湾局、水道局、交通局。現地で随行頂きましたシンガポール事務所、上海事務所、釜山市貿易事務所そして経済局。全ての関係者の皆さんに厚く御礼を申し上げ、今後の議会活動にこの出張の成果を活かすこととお約束し、私の海外出張報告と致します。